



がんばろう福島

～ Voices from Fukushima ～



当協会HPをご覧ください。

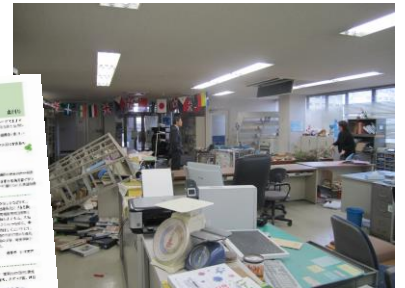
東日本大震災と東京電力福島第一原発事故から5年が経ちました。3月11日(金)には福島県内各地で東日本大震災を追悼する祈念式が行われ、亡くなられた方への追悼と福島の復興への祈りが捧げられました。

(公財)福島県国際交流協会では、震災直後より当協会広報紙「Gyro(ジャイロ)」の震災復興版として「がんばろう福島」を発行し、福島県の現状や県内の国際交流・協力団体の活動、外国出身県民の声などを紹介してきました。今回はその総集編として、震災からの5年間を振り返ります。



東日本大震災から5年、福島の今

東日本大震災から1ヶ月半後、「福島は負けない」という復興への思いを込めて「がんばろう福島」を創刊しました。発行から3年間はクレアのパリ事務所とソウル事務所から翻訳を支援していただき、復興・復旧に向けて動いている福島の現状を、日本語と6言語(英語・中国語・タガログ語・ポルトガル語・韓国語・フランス語)で県内外及び国外に届けました。2012年4月からはブログでも発信してきました。



(右)震災直後の当協会事務所の様子



(左)「がんばろう福島」創刊号



2013年6月に福島市にて開催された「東北六魂祭」。全国からの多くの観光客で賑わいました

震災と原発事故の影響により、被災地の生活再建や環境回復に時間がかかっているなか、公共インフラの復旧・整備が進み、医療や福祉の施設が再開されるなど、徐々に明るい話題も増えてきました。当紙では米の全袋検査や農作物の放射性物質検査の様子、漁業における現状など福島県産の農林水産物に関することや、観光業の取り組みなどを中心に紹介してきました。また、県内各地で復興を願うお祭りやイベントが行われ、昨年4月～6月の3ヶ月間は全国レベルの「ふくしまデスティネーションキャンペーン(DC)」が開催され、観光客入込数は震災前の約9割まで回復しました。今年の4月～6月には「ふくしまアフターDC」が開催され、更に観光客が増えることが期待されています。

福島県内在住の外国人は、平成24年12月末には震災前の約15%減の9,259人にまで落ち込みましたが、その後上昇に転じ、平成27年6月末は震災前とほぼ同様の10,669人まで回復しました(法務省「在留外国人統計」)。外国出身者は、東日本大震災を経験したことにより、自然災害時や緊急時に同国出身者間で連絡を取り合う必要性を痛感し、コミュニティが作られる動きが活発になりました。現在では、地域の公民館等での伝統文化の発表や語学講座などの活動を行う団体もあります。



2015年1月に行われた「外国出身者のための防災講座」の様子。地震への備えや災害時の対応について学びました



福島県内各地の環境放射能測定値（暫定値）

出典：福島県庁ホームページ <http://www.pref.fukushima.lg.jp/>

福島県ホームページでは、県内各地の環境放射能測定値（暫定値）を発表しており、（公財）福島県国際交流協会ホームページでは、英語、中国語、タガログ語、ポルトガル語、韓国語にて更新しています。住宅などの除染が着実に進められており、震災直後と比べその数値はかなり下がってきています。

単位：マイクロシーベルト/時間

日 時	福島市	郡山市	白河市	会津若松市	南会津町	南相馬市	いわき市
（平常値）	0.04	0.04-0.06	0.04-0.05	0.04-0.05	0.02-0.04	0.05	0.05-0.06
2011.4.1 9:00	2.44	2.24	0.73	0.24	0.08	0.92	0.58
2016.3.1 9:00	0.20	0.11	0.09	0.06	0.05	0.09	0.07
福島第一原発からの方向及び距離	北西 約 63km	西 約 58km	西南西 約 81km	西 約 98km	西南西 約 115km	北 約 24km	南南西 約 43km

※測定地点は、福島市は県北保健福祉事務所、その他の市町は県合同庁舎の敷地内です。測定装置は固定型MPです。
※平常値は、県内の平成21年度放射線レベル調査結果です。



福島に暮らす人々の声

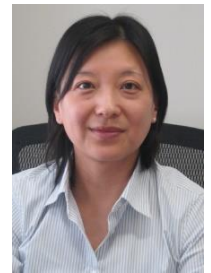
「福島に暮らす人々の声」では、福島県内に住む外国出身の方に、震災当時のことや、今どのような思いで暮らしているかをインタビューしてきました。当協会ホームページに、82名のアーカイブを掲載しています。

URL：<http://www.worldvillage.org/jishin/fukushima.html>

「がんばろう福島」創刊当時に登場してくれました手塚玲子さんと後藤キャサリンさんに、東日本大震災から5年経った今の思いをお聞きました。

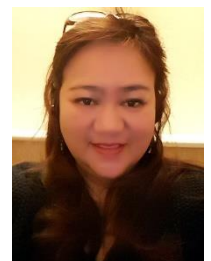
手塚玲子さん（福島市在住・中国出身）

東日本大震災を経験して、自分の好きなことやできることで福島のために何か貢献できないだろうかと思うようになり、震災から約1年後起業しました。主な業務は通訳と翻訳ですが、中国へ進出する企業への支援や県内在住の外国出身者に向けた社会参加のサポートなども行っており、少しずつ事業を上げています。最近では自ら「福島復興事業」と名をつけて、福島県の観光の委託事業や中国人観光客の誘致活動に関わっています。これからも、「常に新しいことに挑戦する」という考えのもと、前向きに行動していきたいと思っています。



後藤キャサリンさん（震災時は福島市在住、現在は大阪市在住 フィリピン出身）

東日本大震災直後、私の携帯電話に県内在住のフィリピン出身者から矢継ぎ早に問い合わせの電話があり、避難のためのバスや飛行機の情報を伝えました。当時とても大変でしたが、後にフィリピン大使館から表彰を受けたことで、多くの同郷の人の力になれていたことを実感しました。自分の仕事の都合などで、2014年春に福島市を離れ、現在は大阪市の会計事務所です。タガログ語の通訳や生活相談に応じる仕事もしています。また、学校や自治体から講演の依頼を受けることがあるので、福島市で東日本大震災を経験した自分だからこそできる情報発信をずっと続けていきたいと思っています。



協会からのお知らせ

○外国出身者のための生活相談窓口のご案内

当協会では、外国出身の方々のために外国語で生活相談に応じています。

- 英語・中国語・日本語 毎週火曜日～土曜日 9:00～17:15
- 韓国語・タガログ語・ポルトガル語 木曜日 10:00～14:00
※第4・5木曜日は事前予約が必要です。

電話：024-524-1316(専用) E-mail：ask@worldvillage.org (専用)

発行者

（公財）福島県国際交流協会

〒960-8103 福島県福島市舟場町2-1
福島県庁舟場町分館2階

☎024-524-1315 FAX 024-521-8308

E-mail info@worldvillage.org

URL <http://www.worldvillage.org>